

# ICMS第3版 日本語版を公開 日積協 CO<sub>2</sub> 排出量追加

日本建築積算協会(浦江真人会長)は「国際コスト管理基準第3版」(ICMS第3版)の日本語版を作成し、協会ホームページ(<http://www.bsij.or.jp>)に公開した。

国際的に一貫性のある建設プロジェクトコストの報告基準であるICMSの第3版は、CO<sub>2</sub>排出量の報告が追加された改訂になっている。

ICMS連合は、2015年に国際通貨基金において創設された、日本建築積算協会を含む世界49組織の連合。ICMSを通じて国際的な建設プロジェクトコストの報告基準に一貫性をもたらすことを目的としている。

第2版は土地の取得から建設、更新、運営、維持管理、供用期間後に係る建設物のライフサイクルコストを報告するフレームワークが強化された。今回の第3版ではライフサイクル炭素排出量も併せて報告できるようになったことで、同じ報告ワークフレームを使って建設物のライフサイクルコストと炭素排出量の相互関係の比較も容易になり、建築物の持続可能性の評価が可能になった。

また、実務者からの意見を反映して、建設プロジェクトのタイプに「海洋構造物」「沿岸工事」「港湾」「水路工事」「土地の造成と埋立て」の五つが加わり、19種類になったことで適用範囲が広がっている。

建設通信新聞

2022年07月26日 002面

## CO<sub>2</sub>排出量報告を追加

日本建築積算協会(浦江真人会長)は、世界各国の建設関連団体で組織する国際建設測定基準連合がまとめた国際建設コスト管理基準(ICMS)の最新版の日本語版を作成し、協会ホームページ(<http://www.bsij.or.jp>)に公開した。「国際コスト管理基準第3版」(ICMS第3版)は、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量の報告が追加されたほか、適用範囲や基準名称も改訂された。

同基準は、国際的な建設プロジェクトコストの報告基準に一貫性を持たせることを目的にまとめられている。今回はライフサイクル炭素排出量を報告できるようになった。建設物のライフ・サイクル・コスト(LCC)と炭素排出量の相互関係の比較が容易になり、建築物の持続可能性の評価が可能になった。

建設プロジェクトのタイプも計19種類に拡充。▽海洋構造物▽沿岸工事▽港湾▽水路工事▽土地の造成と埋め立ての五つが加わり、適用範囲が広がった。基準の名称も、「国際建設測定基準」から「国際建設コスト管理基準」に改名した。ICMSのイニシャルは変わらない。

第2版では、土地の取得から建設、更新、運営、維持管理、供用期間後の建設物のLCCを報告するフレームワークが強化されていた。



ICMS

ICMS: 建設物のライフサイクルコストおよび二酸化炭素排出量の表示における国際規格

第3版(2021年11月)

ICMS 連合(国際コスト管理基準連合)

日刊建設工業新聞

2022年07月29日 012面

# ICMS第3版 日本語版を公開

日本建築積算協会

日本建築積算協会(浦江真人会長)は、国際建設コスト管理基準(ICMS)第3版の日本語版を作成し、ホームページ上で公開を開始した(<http://www.bsij.or.jp/info/abouticms.html>)。

第3版では、同じ報告フレームワークを使って、建築物のライフサイクルコストと炭素排出量を報告できるようになったことで、両者の相互関係が比較しやすくなり、建築物の持続可能性の評価が容易になった。

また、実務者からの意見を反映して、建設プロジェクトのタイプに「海洋構造物」「沿岸工事」「港湾」「水路工事」「土地の造成と埋め立て」を追加。合計19種類になったことで適用範囲が広がった。

ICMSは、建設コストの一貫性や透明性のある比較評価を国際的に可能とするために、世界40カ国以上の団体と専門家により開発された建設コスト分類システム。